

【第1回】

藤沢の地名：由来と学ぶ喜び / 輻輳する小字、村岡の謎

藤沢地名の会 会長 佐々木道雄

第一部：藤沢の地名：由来と学ぶ喜び

第1章. 地名とは

- 土地の呼び名 ——— 基本的な定義
- 人間が共有する場所特定の表現 ———> 歴史・文化を知るきっかけ

『新編相模国風土記稿』（天保12年・1841年刊行）に見る町村名



「明治11年郡区町村編成法」に見る町村名



「明治22年市制・町村制」に見る町村名



現在の「13地区分布図」にみる大字と住所表示

参考 資料編

【資料1：藤沢市の大字区分】

【資料2：藤沢市域行政区画変遷表】

【資料3：藤沢市域の変化と13地区の区割り】

- 「大字」とは：明治22年（1889）に統合・再編成された市町村の一区画で大部分が江戸時代の「村」。
- 「小字」とは：「大字」内の小さな地域で、江戸時代の検地帳に示される「字」を統合したもの。

第2章. 湘南の地名

- 「相模湾沿岸、葉山・逗子・鎌倉・茅ヶ崎・大磯などを含む地方」（広辞苑）
- 「神奈川県南部の相模湾に面する地域」（各種辞典を総合すると）
- 『湘南雑筆』（徳富蘆花、明治23年）
- 「看蓋湘南清絶地」鴨立庵内石碑（西行法師）
- 「湘南」の「湘」は中国湖南省の洞庭湖に注ぐ「湘江」から。
- 相模国の「相」と「南」を合わせた

第3章. 地名「藤沢」の由来

- 藤沢市は明治から昭和にかけて、旧藤沢宿を中心とした藤沢町を経て誕生
- 地名の起源は三つの説 ———> ①が有力
- ① 昔、境川が蛇行していたころ、あちこちに淵が生じたことから「淵沢」といわれ、転訛した
- ② 藤が多く茂っている
- ③ 鎌倉時代、藤沢次郎清親なる奉行が統治

第4章. 地名の分類

- ①地形・地質等の特色に因む地名である自然地名
- ②動植物など生物に基づく地名
- ③民俗・信仰に因む地名
- ④人間の営みに因む地名
- ⑤大昔の出来事に因む地名

その他、「方角・方位を示す地名」が補助的な小字の構成要素

- 市内13地区の行政区画（除く藤沢地区）に対応する大字と特徴的な小字を説明。
13地区と住所との対応は【資料3:藤沢市域の変化と13地区の区割り】を参照。

- 地名の種類

(1) 地形・地質等の特色に因む地名（自然地名）

海岸低地の「砂」・「須賀」

台地・丘陵の「谷」・「谷戸」

台地の上の「原」

河川の蛇行の「川袋」

その他、「池」・「石」・「岡」・「川」・「岸」・「久保（窪）」・「坂」・「沢」・「島」・「台」・「地」・「野」・「林」・「淵」・「藪」・「森」・「山」・「沼」・「川原」・「清水」・「滝」など

(2) 動植物など生物に基づく地名

動物例：「鯛」・「馬」・「狼」・「鯨」・「犬」・「貉」

植物例：「木」・「藤」・「松」・「並木」・「榎」・「桜」・「槐（さいかち）」

(3) 民俗・信仰に因む地名

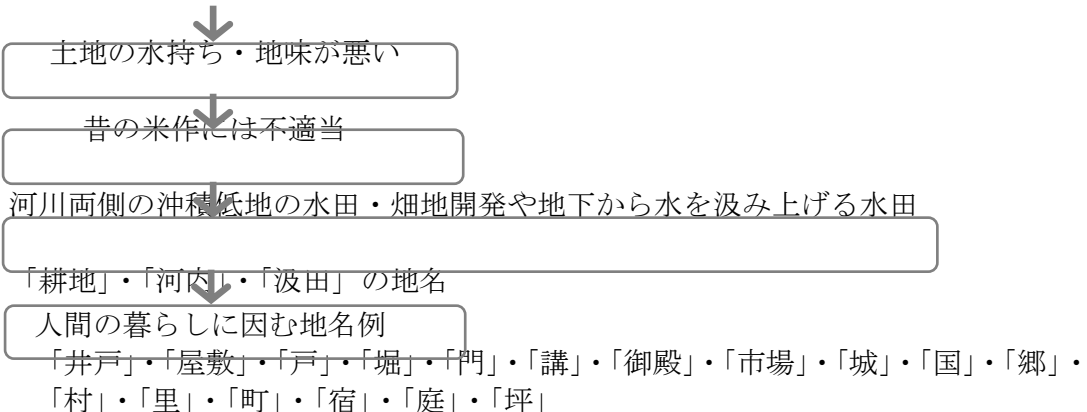
神社・寺院・安置する仏像・処刑場などから命名される

「塚」・「伊勢宮」・「稻荷」・「諏訪」・「天神」・「神」・「観音」・「地藏」・「寺院」・「御幣^{おんべ}」・「十二天」・「不動」・「薬師」・「鳥居」・「宮」・「山王」・「大六天」

(4) 人間の営みに因む地名

- ・ 農業・漁業・商工業などの産業や、居住する人間の日常の暮らしにまつわる地名
商工業例：「鍛冶」・「鋸」

- ・ 藤沢市南部の低地は片瀬丘陵の裾から大磯の高麗山まで、東西13km、幅約5km砂丘地帯の東



(5) 大昔の出来事に因む地名

災害に因む地名：「浪合」・「鯨骨」・「赤山」

その他の出来事：「餅塚」・「小栗塚」・「大塚下」

上記に補助的に付加されて、複合的に地名を構成する「方角・方位を示す地名」があるが、単独で小字名となることは少ない。

下記が事例

「上」・「下」・「表」・「裏」・「東」・「西」・「南」・「北」・「境」・「辻」・「向」・「中」・「前」・「後」・「端」

第5章. 地名を学ぶ喜び

- 地域の歴史が推定できる。（真偽が不明な伝承に注意）
- 市内には同一小字名が多く存在するので、広域的に分布をみると地形が推測できる。

(「ハラ」・「ヤト」・「コーチ」)【資料4:「谷戸」地名の分布】

- 隣接する大字で同一の小字名が存在する。謎を究明する喜び
- 同一地区でも異なる大字で小字名の表記が同じでも読みが違うことがある。謎を究明する喜び
- 小字名の表記は通常漢字でも読みが特殊なケースがある。また、それが是正されることもある

第二部：輻輳する小字、村岡の謎

第1章. 村岡地区の特徴

- 村岡地区には「川名」・「弥勒寺」・「小塚」・「高谷」・「宮前」・「渡内」・「柄沢」7つの大字がある。
- これらのうち、「弥勒寺」・「小塚」・「高谷」・「宮前」・「渡内」の5地域は台地と谷戸が重なり合い起伏・坂の多い土地であった。(江戸時代は鎌倉郡に属す村岡五ヶ村と称された)



多くの小字が複数大字の管轄下にある輻輳

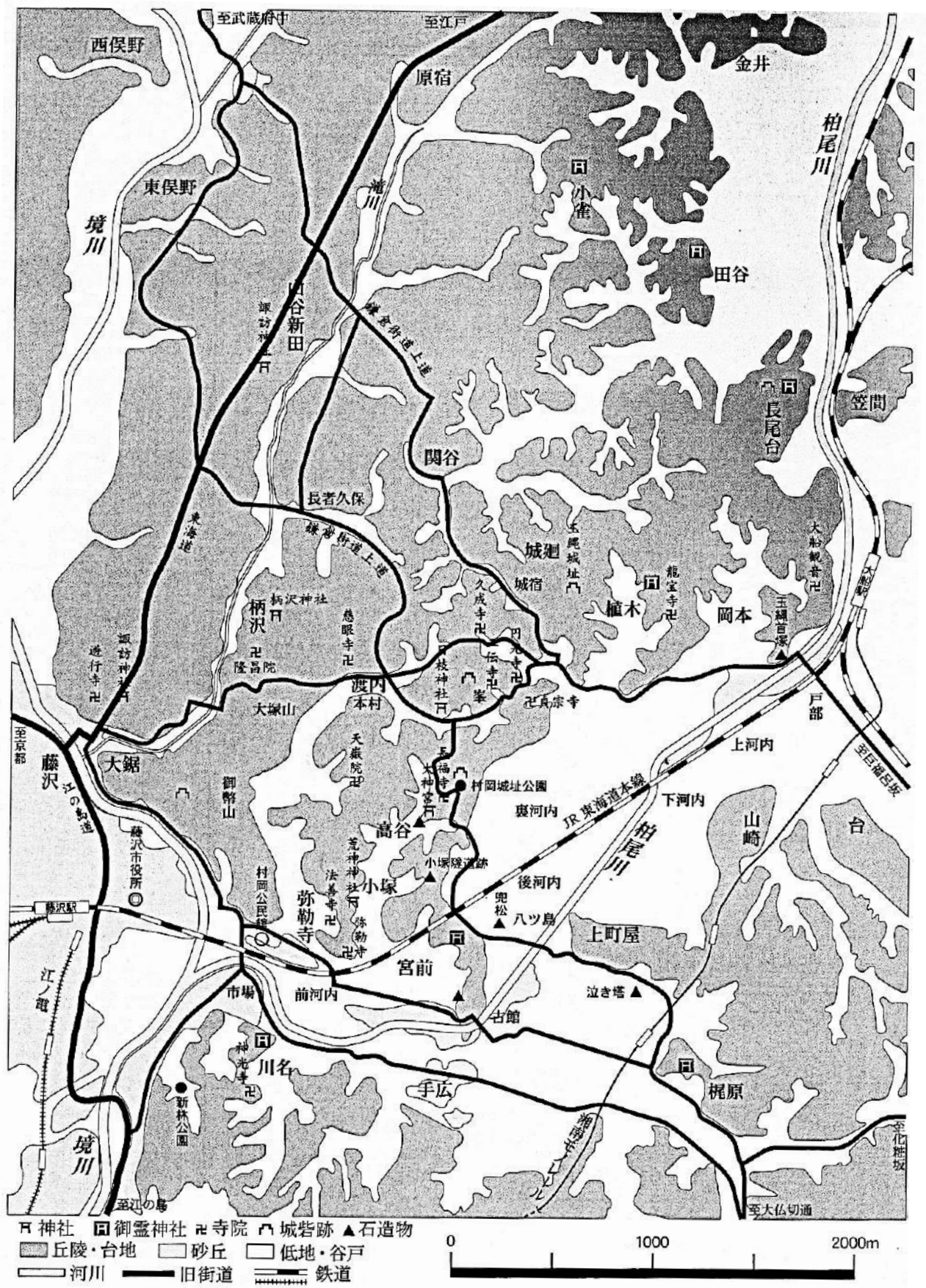
図1-1 参照

評論家・婦人問題研究家である山川菊栄氏（明治23年—昭和55年）の著書『わが住む村』で「村岡という地名は重なり合う岡のむれから成り立っている」と記している。

- 『新編相模国風土記稿』によると、「当地には平良文が住み、村岡五郎と称した」とあるが、明確ではない。宮前の御霊神社（写真1-3参照）は良文の子孫である鎌倉権五郎景政らにより支配されたとの説がある。

図1-1 村岡の旧地形と史跡図

転載：『歴史をひもとく藤沢の資料2村岡地区』（2017年 藤沢市文書館発行）



注）地形は、国土地理院ホームページの地形分類図公開ページ地理院地図電子国土Web. 土地条件図をもとに作図し、市街化以前の旧地形を示した。（原図作成石塚勝 作図市川勝典）

第2章. 村岡地区の地名由来

以後、大字と興味深い小字を取り上げ、その由来を説明する。【資料5：村岡地域の小字】参照

1. 大字「川名」

(1) 大字「川名」の地名由来

- 戦国時代からの地名。古くは「河名」・「川奈」・「川那」。
- 砂地が多く水の便が悪く、溜池は2つあったが、水不足がしばしば発生

(2) 「川名」の小字の地名由来

① 地形・地質等の特色に因む小字名（自然地名）

清水（しみず）：湧き水が豊かで、村の水田を潤し、川名大池にも注いでいる。市内三大谷戸の一つ川名清水谷戸がある事でも知られる。

森久（もりきょう）：「森」の字が含まれており、森の存在が推測されるが不明。「もりきょう」の読みが小字名であることが特筆。

新林（しんばし）：「林」の字が含まれており、林の存在が推測されるが不明。「しんばし」の読みが小字名であることが特筆。昭和55年に公園が開設され、「新林（しんばやし）公園」と名付けられている。（写真1-1）



【写真1-1：新林公園】（筆者撮影）

② 人間の営みに因む小字名

市場（いちば）：戦国時代から境川の当地での別名である片瀬川を経て物資が陸揚げされ、市場が開かれ、軍事上・経済上の要地となった。このため、「川名」全体が領主の直轄領となり、年貢の免除もあったとの伝承がある。

2. 大字「弥勒寺」

(1) 大字「弥勒寺」の地名由来

地域内にある日蓮宗の「弥勒寺」が江戸時代の村名の由来になり、大字としても引き継がれている。なお、「弥勒寺」は鎌倉幕府第三代執権北条泰時の創建になる古刹。

(2) 「弥勒寺」の小字の地名由来

① 地形・地質等の特色に因む小字名（自然地名）

弥勒寺谷（みろくじだに）：地域内にある弥勒寺と谷の地形から付けられた。

他に大字「小塚」・「高谷」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

② 民俗・信仰に因む小字名

十二天（じゅうにてん）：十二天は神話にある土地の守り神で「天神七代、地神五代」のこと。これを祀った十二天社が宮前にあり、

他に大字「小塚」・「高谷」・「宮前」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

御幣下（おんべした）：御幣とは神道の祭祀で捧げられ、用いられる幣帛（へいはく）の一種で、2本の紙垂（しで）を竹または木の幣串（へいぐし）で挟んだもの。この地名が付いたかの由来は不明。

他に大字「小塚」・「高谷」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

③ 人間の営みに因む小字名

前河内（まえごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「前」はその方位を表す。

他に大字「小塚」・「高谷」・「宮前」にも本小字が輻輳的に所在。

後河内（うしろごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「後」は

その方位を表す。

他に大字「小塚」・「宮前」にも本小字が輻輳的に所在。

下河内（しもごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「下」はその方位を表す。

他に大字「小塚」・「宮前」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

これらは何を基準に方位を示したかは不明。水田の開拓した順か、例えば御霊神社などの神社を中心とした位置を示すのか。以降の記載も同様。

3. 大字「小塚」

（1）大字「小塚」の地名由来

『新編相模国風土記稿』によれば、村内に古塚があったことが由来という。地元の有志5人が7年かけて完成させた【写真1-2：現在は無くなった小塚隧道】は農作業のため玉縄耕地と小塚集落の間を往復するために取り組んだ。



【写真1-2：現在は無くなった小塚隧道】

転載：『藤沢の地名』（平成9年） 日本地名研究所編

（2）「小塚」の小字の地名由来

① 地形・地質等の特色に因む小字名（自然地名）

弥勒寺谷（みろくじだに）：地域内にある弥勒寺と谷の地形から付けられた。

他に大字「弥勒寺」・「高谷」・「渡内」

にも本小字が輻輳的に所在。

② 民俗・信仰に因む小字名

天嶽院下（てんがくいんした）：地域内にある天嶽院（てんがくいん）という小字名。「嶽」は「岳」とも表記される。北条早雲を弔うために玉縄城主北条綱成が建立した曹洞宗の寺院で功德山天嶽院から名付けられた。「天岳」は早雲の法名。他に大字「高谷」・「宮前」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

十二天（じゅうにてん）：十二天は神話にある土地の守り神で「天神七代、地神五代」のこと。これを祀った十二天社が宮前にあり、他に大字「弥勒寺」・「高谷」・「宮前」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

御幣下（おんべした）：御幣とは神道の祭祀で捧げられ、用いられる幣帛（へいはく）の一種で、2本の紙垂（しで）を竹または木の幣串（へいぐし）で挟んだもの。なぜ、この地名が付いたかの由来は不明。他に大字「弥勒寺」・「高谷」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

本在寺（ほんざいじ）：現在は茅ヶ崎にある本在寺は、江戸時代にあった寺で、移転した後も小字名だけが残ったといわれる。

他に大字「宮前」・「渡内」・「柄沢」にも本小字が輻輳的に所在。

③ 人間の営みに因む小字名

裏河内（うらごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「裏」はその方位を表す。

他に大字「高谷」・「宮前」にも本小字が輻輳的に所在。

後河内（うしろごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「後」はその方位を表す。

他に大字「弥勒寺」・「宮前」にも本小字が輻輳的に所在。

前河内（まえごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「前」はその方位を表す。

他に大字「弥勒寺」・「高谷」・「宮前」にも本小字が輻輳的に所在。

下河内（しもごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「下」はその方位を表す。

他に大字「弥勒寺」・「宮前」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

4. 大字「高谷」

（1）大字「高谷」の地名由来

由来は不明

（2）「高谷」の小字の地名由来

① 地形・地質等の特色に因む小字名（自然地名）

弥勒寺谷（みろくじだに）：地域内にある弥勒寺と谷の地形から付けられた。

他に大字「弥勒寺」・「小塚」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

② 民俗・信仰に因む小字名

十二天（じゅうにてん）：十二天は神話にある土地の守り神で「天神七代、地神五代」のこと。これを祀った十二天社が宮前にあり、

他に大字「小塚」・「宮前」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

天嶽院下（てんがくいんした）：地域内にある天嶽院とその方位から付けられた小字名。「嶽」は「岳」とも表記される。北条早雲を弔うために玉縄城主北条綱成が建立した曹洞宗の寺院で功德山天嶽院から名付けられた。「天岳」は早雲の法名。

他に大字「小塚」・「宮前」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

御幣下（おんべした）：御幣とは神道の祭祀で捧げられ、用いられる幣帛（へいはく）の一種で、2本の紙垂（しで）を竹または木の幣串（へいぐし）で挟んだもの。なぜ、この地名が付いたかの由来は不明。

他に大字「弥勒寺」・「小塚」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

③ 人間の営みに因む小字名

裏河内（うらごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「裏」はその方位を表す。

他に大字「小塚」・「宮前」にも本小字が輻輳的に所在。

前河内（まえごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「前」はその方位を表す。

他に大字「弥勒寺」・「小塚」・「宮前」にも本小字が輻輳的に所在。

5. 大字「宮前」

（1）大字「宮前」の地名由来

村岡五ヶ村の総鎮守である御霊神社（ごりょうじんじゃ）に因む大字名。（写真1-3）

（2）「宮前」の小字の地名由来

① 民俗・信仰に因む小字名

十二天（じゅうにてん）：十二天は神話にある土地の守り神で「天神七代、地神五代」のこと。これを祀った十二天社が宮前にあり、
他に大字「小塚」・「高谷」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

天嶽院下（てんがくいんした）：地域内にある天嶽院とその方位から付けられた小字名。「嶽」は「岳」とも表記される。北条早雲を弔うために玉縄城主北条綱成が建立した曹洞宗の寺院で功德山天嶽院から名づけられた。「天



岳」は早雲の法名。

他に大字「小塚」・「高谷」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

本在寺（ほんざいじ）：現在は茅ヶ崎にある本在寺は、江戸時代にあった寺で、移転した後も小字名だけが残ったといわれる。

他に大字「小塚」・「渡内」・「柄沢」にも本小字が輻輳的に所在。

② 人間の営みに因む小字名

裏河内（うらごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「裏」はその方位を表す。

他に大字「小塚」・「高谷」にも本小字が輻輳的に所在。

後河内（うしろごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「後」はその方位を表す。

他に大字「弥勒寺」・「小塚」にも本小字が輻輳的に所在。

前河内（まえごうち）：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「前」はその方位を表す。

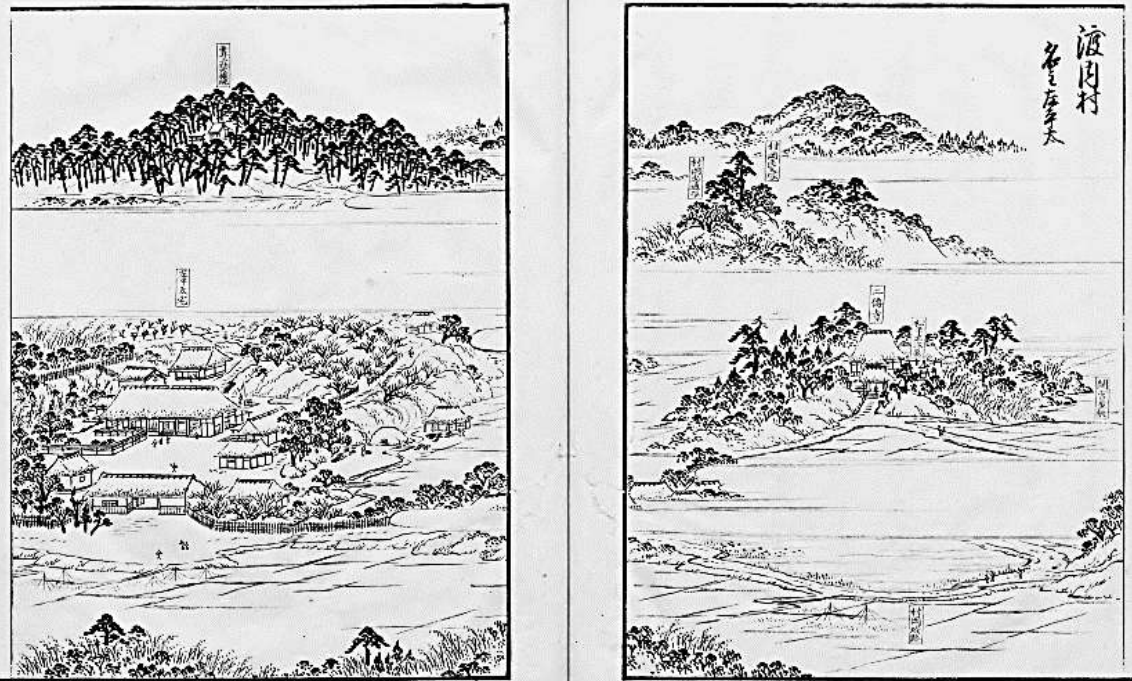
他に大字「弥勒寺」・「小塚」・「高谷」にも本小字が輻輳的に所在。

6. 大字「渡内」

（1）大字「渡内」の地名由来

由来は不明。

峯渡内村の名主福原高行とその子高峰は天保10年（1839）『相中留恩記略』を刊行。相模国内における徳川家康ゆかりの遺蹟や名勝を探訪、編纂し、江戸の画家長谷川雪堤の絵図を含めた図会（ずえ）形式の地誌。高峰自身を称した【図1-2：名主左平太】の雪堤絵図を二上



① 地形・【図1-2：名主左平太】 出典：『相中留恩記略 卷之十八』 国立公文書館蔵
弥勒寺谷（みろくじだに）：地域内にある弥勒寺と谷の地形から付けられた。

他に大字「弥勒寺」・「小塚」・「高谷」にも本小字が輻輳的に所在。

② 民俗・信仰に因む小字名

十二天（じゅうにてん）：十二天は神話にある土地の守り神で「天神七代、地神五代」のこと。これを祀った十二天社が宮前にあり、他に大字「弥勒寺」・「小

塚・「高谷」・「宮前」にも本小字が輻輳的に所在。

天嶽院下(てんがくいんした)：地域内にある天嶽院とその方位から付けられた小字名。「嶽」は「岳」とも表記される。北条早雲を弔うために玉縄城主北条綱成が建立した曹洞宗の寺院で功德山天嶽院から名付けられた。「天岳」は早雲の法名。

他に大字「小塚」・「高谷」・「宮前」にも本小字が輻輳的に所在。

御幣下(おんべした)：御幣とは神道の祭祀で捧げられ、用いられる幣帛(へいはく)の一種で、2本の紙垂(しで)を竹または木の幣串(へいぐし)で挟んだもの。なぜ、この地名が付いたかの由来は不明。

他に大字「弥勒寺」・「小塚」・「高谷」にも本小字が輻輳的に所在。

本在寺(ほんざいじ)：現在は茅ヶ崎にある本在寺は、江戸時代にあった寺で、移転した後も小字名だけが残ったといわれる。

他に大字「小塚」・「宮前」・「柄沢」にも本小字が輻輳的に所在。

③ 人間の営みに因む小字名

下河内(しもごうち)：河内は耕地と同じで川沿いの水田地帯を意味し、「下」はその方位を表す。

他に大字「弥勒寺」・「小塚」にも本小字が輻輳的に所在。

7. 大字「柄沢」

(1) 大字「柄沢」の地名由来

谷戸の裾から僅かな伏流水とみられる程度の水が乏しい地域から「空沢」と命名され、それが転訛

(2) 「柄沢」の小字の地名由来

① 地形・地質等の特色に因む小字名(自然地名)

鞍骨(くらぼね)：①村岡南部のなだらかな丘が馬の骨のように見えるからとの説、②人骨や馬の鞍が多数発掘されたことからとの説、③多くの人骨が発掘されたので、鎌倉時代の処刑場ではとの説がある。

② 民俗・信仰に因む小字名

六地藏(ろくじざう)：仏教では人間やそれ以外の苦しみを六つの世界である六道に分け、これらの苦しみを救うのが地藏であり、六体の地藏を建てる土地からこの名が起った。

観音脇(かんのんわき)・観音下(かんのんした)：鎌倉観音巡りの第三十三番にあたる慈眼寺(じがんじ)の本尊は藤沢市指定重要文化財である十一面観音(写真1-4)で、小字名はこれに因む。

本在寺(ほんざいじ)：現在は茅ヶ崎にある本在寺は、江戸時代にあった寺で、移転した後も小字名だけが残ったといわれる。

他に大字「小塚」・「宮前」・「渡内」にも本小字が輻輳的に所在。

③ 人間の営みに因む小字名

大塚山(おおつかやま)・大塚下(おおつかした)：大塚山(おおつかやま)・大塚下(おおつかした)：小田原北条氏の時代に玉縄城から小田原へ急報するための「のろし塚」として築いたと



伝わる。大塚下（おおつかした）の「した」
はなぜか地元ではつけない。（「塚」は「民俗・
信仰に因む」分類もあるが、ここでの塚は「の
ろし台」との事であり、「人間の営みに因む
小字名」に区分）

<引用参考文献>

- 『藤沢の地名』 日本地名研究所編 平成 9 年(第 3 版) 藤沢市
『市民が歩んだ 80 年ー「藤沢らしさ」を求めてー(続)藤沢市史別編 4』
2021 年 2 月 藤沢市
『歴史をひもとく藤沢の資料 2. 村岡地区』 2017 年 3 月 藤沢市文書館
『歴史をひもとく藤沢の資料 別巻中世文書』 石塚勝 著 2021 年 3 月 藤沢市文書館
『相中留恩記略』 福原高峰 撰・長谷川雪堤 画
相中留恩記略刊行会編 昭和 42 年 11 月 有隣堂
『わが住む村』 山川菊栄 著 昭和 58 年 岩波文庫
『新編相模国風土記稿』 昭和 37 年・平成 10 年 4 月改訂 雄山閣
『藤沢市史資料集(十一) 村明細帳・皇国地誌村誌』 昭和 61 年 11 月 藤沢市文書館
平成 14 年度 藤沢市生涯学習大学テキスト
『藤沢の地名～自然地名の由来をさぐる』 小林政夫 著
平成 16 年度 藤沢市生涯学習大学テキスト
『歴史を刻む地名～藤沢の歴史地名をめぐって』 湯山学 著
平成 25 年度 藤沢市生涯学習大学テキスト
『地名が語る藤沢の成り立ち』 仲摩邦夫 著
令和 2 年度『地名の会 地名探訪配布資料 村岡地区』 藤沢地名の会
『藤沢市地名調査報告書(Ⅱ)』 日本地名研究所 著 1985 年 藤沢市